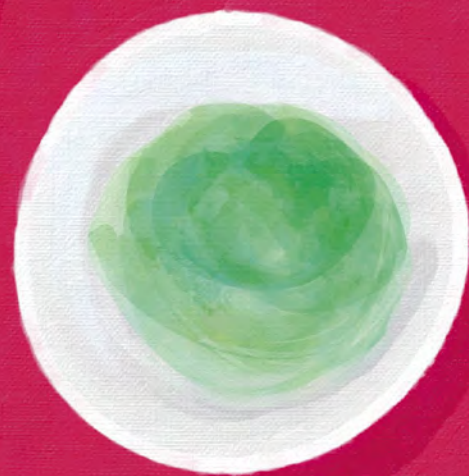
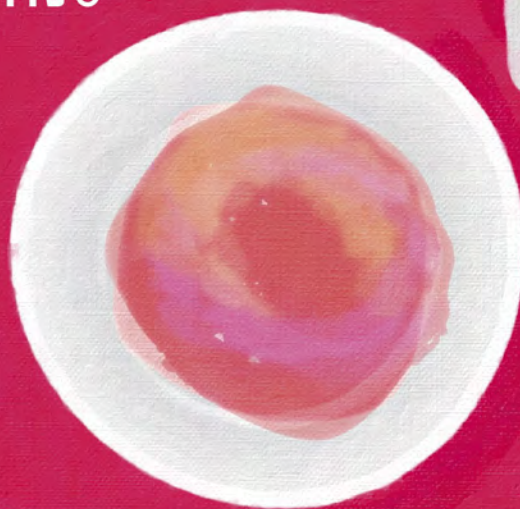
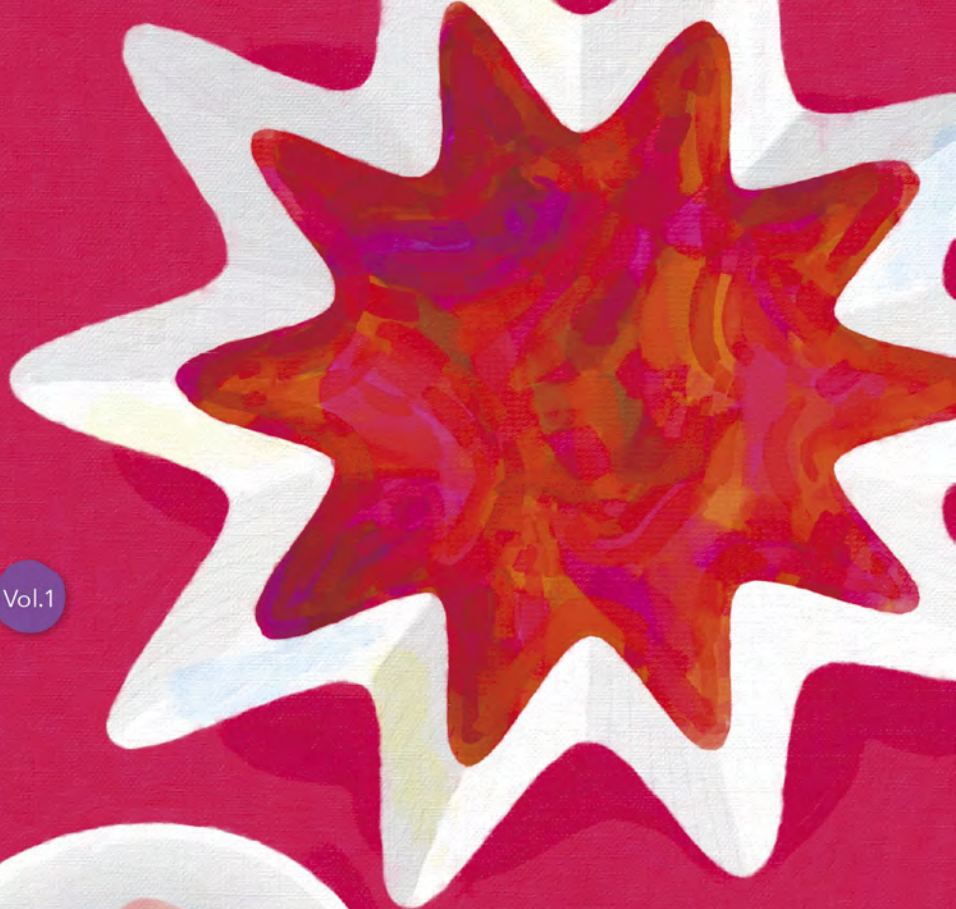


びじゅつって、すげえ! 2021-2022 Vol.1

あれも、これも、  
どこでも美術。



# あれも、これも、どこでも美術。

|    |    |                            |
|----|----|----------------------------|
| 目次 | 02 | どこでも大丈夫!                   |
|    | 03 | 色をめぐるワークショップ               |
|    |    | 色をつくってみませんか?               |
|    | 04 | 色材パフォーマンス                  |
|    | 07 | 顔料のつくり方 サ・ピグメント ○○色をつくる!   |
|    | 09 | 染色の方法 ○○色をつくる~いのちの色・植物     |
|    | 11 | 絵の具の調合 わたしの青い色             |
|    | 13 | 工作ワークショップ                  |
|    |    | ガラスと水晶 キラッキラッ              |
|    | 15 | たたんで、ひらいて、きて、ボン!           |
|    | 17 | アニマル雑技団~空中サーカス編            |
|    | 18 | 回転デコレーション大盛り♡/親子で感染防止グッズ作り |
|    | 19 | 体感ワークショップ                  |
|    |    | ふわもこ                       |
|    | 21 | カラフルぐにゃりん                  |
|    | 23 | ころころピンポン/ほわんほわん            |
|    | 24 | はたふわ/カラフルチップパダライス          |
|    | 25 | 視るワークショップ@コレクション展示室        |
|    | 29 | 先生のためのワークショップ              |
|    | 33 | 作家と出会うワークショップ              |

# どこでも、大丈夫!

新型コロナウイルス感染防止対策のため、多くの美術館・博物館が休館したり、開館しても教育普及プログラムは中止する館が多い中、大分県は感染が比較的落ち着いたため、大分県立美術館(OPAM)では展覧会のみならず、教育普及プログラムを実施することができた。参加者は少人数で事前申込、1回の時間は短縮し、そして感染防止を考慮しての内容だが、それでも来館した子どもから大人まで多くの人が、美術体験・美術館体験を行い、笑顔が増えたことは何よりだ。

開館以来、毎年こうした1年間の活動を『びじゅつって、すげえ!』としてまとめている。昨年度は、記録的要素の強い「美術館においてよ。」と、体感ワークショップや工作ワークショップ、そして絵の具ワークショップなど、学校や幼稚園で行った出前ワークショップの記録を中心に、学校や家庭でもできるように「あれも、これも美術。」としてまとめた。美術館の教育普及活動は止まらない。昨年度の記録集では紹介しきれなかった体感ワークショップや、新たに始めた工作ワークショップに加え、美術館でのワークショップやコレクション展の視方・楽しみ方を加えることで、より美術の楽しさを伝えていきたい。そこで今年度は、実施した活動の中から、学校でも、家庭でも、どこでも行えるようなワークショップ「あれも、これも、どこでも美術。」としてまとめた。

この「どこでも」とは文字通り「どこでも」である。もちろん工作ワークショップは、学校でも家庭でも、材料と道具を準備すればできる内容だが、ここで取り上げている美術館のコレクション作品を視る方法は、当館の所蔵作品だけでなく、どこか他所の美術館や博物館でも楽しめる内容だ。さらに山でも海でも街中でも、「モノ」を視る楽しさは共通なので、どこでも応用可能なのだ。それが可能なのは、「視る楽しさ」の根本である〈美術〉は、無限の可能性を秘めているからである。

身の回り、至るところに存在する美しいモノを発見する目を持つことが、やがて自身の目で美術作品を視ることにつながる。「視て楽しむ」ことは、「どこでも」できる。一人で、誰かと一緒に、「視る」ことをいっぱい楽しんでほしい。

大分県立美術館 学芸企画課 教育普及室 室長

榎本 寿紀





色をつくってみませんか?

OPAM教育普及の「教材ボックス」は、大分県の実験・環境・風土・歴史・文化を美術的視点でとらえ、県内の自然から採集した実物標本を中心に、様々な素材や色材、道具、あるいは所蔵作品に関連した画像や資料からなる。「見る」という好奇心を触発し、日常から美術の世界へ入るきっかけになればと制作したものだ。ワークショップ形式のレクチャー「朝のおとなの1010講座」「夜のおとなの金曜講座」では、普段は公開できないボックスの中身やその詳細を紹介する「見るは楽しい教材ボックス」や、身近なモノから色を得る「大分県から絵の具をつくる」の話をしている。

そして色の面白さや美しさをより多くの人に伝えるため、開館以来、「ザ・ピグメント 〇〇色をつくる」「ザ・ピグメント 絵の具は石からできている?」「いろいろな色の話 顔料と染料」などと題した色のワークショップを、一般向け、小学校高学年から中学生、そして先生の研修で行ってきた。ここでは今年度の色をめぐるワークショップから、講座内容や制作方法について、詳しく触れていきたい。



色材パフォーマンス

ワークショップ「大分県から絵の具をつくる」、そして教材ボックスの制作過程を公開する「公開ラボラトリー 教材ボックスつくってます!」から独立して、色づくりの実演とともに色にまつわる自然や美術の話を行うのが、今年度より新たに始まった「色材パフォーマンス」である。本来は参加者を募り、終日、そして数日間にもわたる実技集中講座として開催したい企画だが、多人数の制作では温度・湿度・粉塵の関係でアトリ環境での実施は難しく、時間もかかる。さらに新型コロナウイルス感染防止対策も考慮し、少人数・事前申込制で始めた。この色材パフォーマンスにより、色に対する興味が一層広まれば嬉しい。

藍の色

紅の色



藍の枯葉を煮込んで茶色の色素を取り除き、還元剤を入れて染液をつくる。そこに布を入れると黄緑に染まるが、空気に触れるとみるみるうちに青く発色していく。これが藍の枯葉染である。

では化学薬品がなかった時代はどうか。藍の枯葉に石灰と麦芽糖を加えて泡立てると、青い泡が出てくる。これは版画家の立原位貴氏が葛飾北斎による『絵本彩色通』から再現した方法を枯葉で応用したもので、泡立てるときに布を入れると、青く染めることができるのだ。



※藍の葉っぱは、毎年、ワークショップの参加者やサポーターが育てて、持って来てくれる。この葉っぱを使って講座や出前ワークショップを行っている。

紅花には2つの色素があり、その抽出方法によって色を染め分けることができる。2日前から水に浸した紅花餅(紅花を発酵させ、煎餅状に乾燥させたもの)からサフロールイエロー(黄色色素)を取り出し、この液で黄色を染める。黄色を絞った紅花餅からは、アルカリで赤い色素が抽出できる。1時間以上アルカリに浸した紅花餅にも先ほどの黄色色素は残っているため、この液で染めると黄色味を帯びた紅色・藕色になる。

紅花餅を水やアルカリに浸した後にこ漉すときは、綿布の袋に入れて行う。綿は黄色色素が染まらず赤い色素のみ染まるので、染色が進むにつれ、真っ赤になる。これをアルカリで分解して赤い色素だけを取り出し、再び絹を染めると、鮮やかなピンク色・韓紅色に染まる。

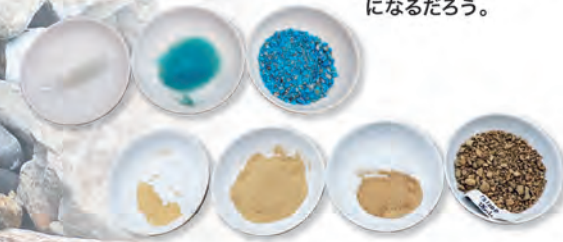
染色というよりも化学実験に似ている紅花染だが、とにかく待ち時間が長いので大変である。

※紅花もワークショップの参加者が育てている。



石を砕くと絵の具のもと、顔料ができる。顔料としての石(鉱物)には、藍銅鉱、孔雀石、辰砂等があるが、海岸の石ころをはじめ、大分県内各地の石は色数が豊富なので、身近な石から顔料づくりができる。その石を砕いて篩にかけ、乳鉢ですり潰す。そして紗幕で漉してパウダー状の顔料をつくった。また「水簸」も実演。砕いた顔料を水の中に沈殿させ、沈殿速度の違いで顔料の粒子を整える方法である。教材ボックスとあわせて見ると、顔料の美しさの虜になる。

半貴石であるラピスラズリを砕いての顔料制作も行った。ラピスラズリはとても硬く、叩くと火花が飛び散り、硫黄の匂いもある。青い部分だけを砕けば良質な絵の具となるが、他の色も混ざるため、その分離には松脂、乳香、蜜蝋を混ぜてパテ状にし、灰汁の中で揉みだすという15世紀にチェンニーノ・チェンニーニが行っていた方法がある。これはまだ先の色材パフォーマンスになるだろう。



顔料は石を砕いた色の粉であり、これだけでは絵の具にならない。接着剤や糊の役割をする展色材を混ぜることにより、はじめて絵の具になる。この展色材の種類によって、描かれたときの呼び方が変わる。

展色材として動物の骨や皮を煮てつくった膠を顔料に混ぜて描くと、日本画になる。膠はゼラチン・コラーゲンだが、家具の接着剤や化粧品、食品にも使われる。生卵の黄身を混ぜると、テンペラ画。数日間乾燥させると水に溶けなくなり、堅牢な絵の具となる。アラビアゴムを混ぜると水彩画、乾性油を混ぜて練ると油彩画になる。油彩画の場合、混ぜるだけでは絵の具にはならず、しっかり練ることが大切である。ガラスでできた練り台と練り棒を使わなければしっかり練ることはできない。

※「展色材」は「展色剤」と記す場合が多いが、ここでは材料としての意味合いが強いので、OPAM教育普及では「材」の字を使っている。



展色材



動物から色をつくる場合、特別な呪術的儀式以外で血は用いない(時間が経つと変色するし、何よりも気持ちが悪い)。牛の骨や象牙を蒸し焼きにした炭からつくるボーン・ブラック、アイボリー・ブラック、そしてイタボガキでつくる胡粉の白、イカ墨によるセピア、コチニールをはじめとしたカイガラムシからつくる赤系統の色などがある。また18世紀にドイツで発見されたペロ藍(ブルシャンブルー)が牛の血からつくられたという話をもとに、豊後牛の血から色をつくる実験を行っている。

さらにアカニシとイボニシの貝殻を割り、中から黄色い鰓下腺を取り出して布に染める。紫外線を当てると鮮やかな紫に発色していった。これが貝紫である。

天然の白い絵の具は、水晶や方解石などの鉱物や貝殻からつくることが出来る。いずれも砕くと白い粉になるが、展色材との相性があり、白い粉ならすべてが絵の具になるわけではない。白い粉、例えば砂糖や食塩、片栗粉などは絵の具になるのだろうか。

水晶や方解石、イタボガキ、そして身近にある白い粉に4種の展色材を混ぜながら、どのような白い絵の具になるか確認した。



植物を煮た液に繊維を入れて熱を加えると、色は必ず付く。そのままでは薄い色だが、金属塩を加えると色が変わり、色落ちもしにくくなり、これを媒染という。そして植物の種類と抽出方法、媒染剤の種類、動物繊維と植物繊維の違い、さらに染める回数により、異なる色が得られる。

自宅でもできる染色法の紹介として、タマネギの皮と蘇芳のチップに、媒染剤として明礬と木酢酸鉄を使用し、木綿と絹を染色した。





出前ワークショップより

THE PIGMENT

### 顔料のつくり方

# サ・ピグメント 〇〇色をつくる!

地質学的にみても、いろいろな色の石が採れる大分県。OPAM教材ボックスでは大分の石から10,000色の顔料づくりを目指しています。石を砕いて粉にするだけですが、ちょっとしたコツもあります。ぜひ、チャレンジしてみてください。

## 材料と道具

4~5cmくらいの石、金づち、金床、ビニール袋、雑巾、滑り止めのゴムシート、茶こし、ボウル、乳鉢、刺繍枠、版画用の紗幕(テトロン#300)、膠液、生卵、アラビアゴム液、リンシードオイル、練り台、練り棒(なければペインティング・ナイフ)、筆、イラストボード、梅皿、筆洗など

※オリエンテーション用に、絵の具になる代表的な鉱物があるとわかりやすい。



各地で拾った石をあらかじめ用意しておく、そこから選んだり、貴石や半貴石と呼ばれる鮮やかな天然の宝石を使ったりすることで、色の数を増やすこともできます。でも自分で拾った石から絵の具をつくる体験は、何よりも驚きになります。

## 1 はじめに鉱物から 絵の具のもと、 顔料をつくるお話

絵の具は石からできています。ラピスラズリ、藍銅鉱、孔雀石、辰砂や水晶などの鉱物を見ます。

## 2 石を準備しよう

海岸や学校の敷地から、石を拾って持ってきます。大きさは5cm以下。欲張って大きな石にすると、砕くのが大変です。



## 3 金づちで砕きます

金床の上に石をのせ、金づちで叩いて砕きます。石の破片が飛び散らないように、ビニール袋の中で砕きましょう。



雑巾の上にビニール袋をのせ、金床と滑り止めのゴムシートを中に入れます。こうして金床の上に石を置き、金づちで叩けば飛び散りません。ビニール袋の上から叩くと、すぐに破れるので要注意!



## 4 ふるい 篩にかける

ボウルの上で篩にかけます(ここでは茶こしを使用)。網目を通らなかった大きな粒は、再度、金づちで砕きます。



## 5 乳鉢ですりつぶす

網目を通った小さな粒を、乳鉢で細かくすりつぶします。摩擦ですりつぶされるので、しっかり乳鉢を抱え込み、乳棒を高速回転させてすりつぶすのがおすすめです。



紗幕を通過した顔料はパウダー状になり、色は薄くなります。紗幕を通過しなかった粒は、色は濃く、膠を混ぜれば絵の具として使えます。

## 6 紗幕で漉す

刺繍枠に紗幕を張り、ボウルの上にのせます。その上にすりつぶした顔料をのせ、静かに指の腹で円を描くように、顔料を押し付けながら紗幕を通過させます。

すいひ水漉の方法(p.5参照)もありますが、乾かすのに時間がかかるので、ここでは紗幕を使用しました。

ここまでで約3時間。絵の具づくりはとって時間もかかります。「そこをなんとか短く」は、できません。また美術作品の鑑賞や科学的視点への好奇心を醸成するため、小学校では4年生以上の高学年で行います。3年生以下では、もちろん個人差がありますが、絵の具づくりには興味を示さないこともしばしばです。低学年では、絵の具づくりではなく、形を描いたり、色の広がりやにじみ具合を楽しんだりしてほしいと思います。その場合は、天然絵の具よりも合成絵の具の方が、描きやすさ、耐色性、価格、安全面ではるかに優れています。



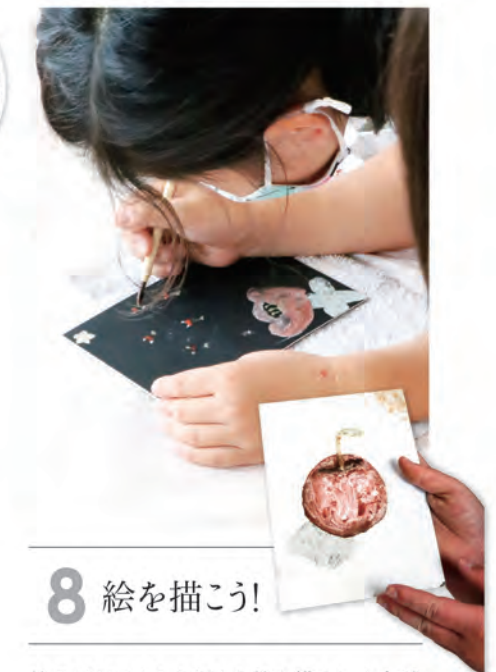
※このページに登場するお友達/佐伯市立東雲小学校・姪島村立姪島中学校



## 7 展色材のお話

石を砕いた粉(顔料)に展色材を混ぜて、絵の具にします。展色材には接着剤や糊の役割があります(詳しくはp.5)。

高学年と一緒についたり、高学年がついた顔料に、低学年と一緒に展色材を混ぜて絵を描いたりするのもいいかもしれません。



## 8 絵を描こう!

絵の具ができたなら好きな絵を描こう。お友達がついた絵の具も使えば、色数がいっぱい。何を描けばいいのか迷ってしまう場合は、みんなで縦横の線だけ、点だけ、星だけなど、テーマを決めて描いてもステキです。なんとって絵の具そのものが主役みたいなものだから。

出前ワークショップより

# 染色の方法 THE PLANTS

## 〇〇色をつくる いのちの色・植物

身近に生えているどんな植物を使っても、染色はできます。しかし古くから染色に使われる植物は、薬草が多いようです。これは薬草としての効能と、体によいものを身にまとう呪術的な意味合いが重なっているからといわれています。植物での染色ワークショップは、「美術」と「家庭科」と「化学」、それに「歴史」や「文化」の時間を混ぜたような感じがするかもしれません。

ハサミを使う場合、鉄製のものは媒染されてしまうことがあるので避けます。

### 染液抽出の準備 植物を細かく刻みます。

葉っぱは、手でだけねじ切るようにすると、細胞がむき出しになり、染液の抽出がしやすくなります。

茎の先端を持ち、握った手を根元に向かって滑らせると、枝が分かれていた部分が取れやすいです。

植物の種類によってはアレルギー反応が出る場合がありますので、ゴム手袋をした方がいいかもしれません。

### 材料と道具

ハサミ(鉄製は避ける)、ビニール袋、軍手(植物採集のため)、ボウル(大)または大きな鍋、漉し布(不織布)、ゴム手袋、ガスコンロ、温度計、媒染剤(明礬・木酢酸鉄など)、輪ゴムやタコ糸など、染める布(ここでは絹)、藍(生葉の場合はミキサー、枯葉の場合は石灰と麦芽糖が必要)



### 1 植物を集める

ハサミとビニール袋を持って、校内から植物を集めます。家にあるタマネギの皮やダイコンの葉っぱなど、身近なところからも集めて持って来ます。



刻んだ植物は不織布の袋に入れて煮ると、お湯を換えるときに簡単です。

### 2 染液の抽出

刻んだ植物をボウルに入れ、煮出して染液を抽出します。はじめに10分ほど煮た液は捨て、お湯をつぎ足して10分ほど煮立てて抽出します。その後、お湯を入れ替えて同じように煮立てたものを合わせ、染液にします。



### 3 媒染液に浸しておこう

染めたい布は、あらかじめ媒染液に浸しておく方法(先媒染)と、染色した後に媒染液に浸す方法(後媒染)があります。媒染液とは布の繊維に植物の色素をくっつきやすくするための金属塩で、明礬(硫酸アルミニウム)や木酢酸鉄など媒染液の種類によって、同じ植物で染めても発色が異なります。室温で約30分、浸します。



### 4 模様を絞る

絞り染で模様をつくりたい場合は、輪ゴムやタコ糸を使ってくったり、屏風たみにして割り箸ではさみ、輪ゴムで留めたりして防染の部分をつくります。



### 5 水に浸す

絞り染をした場合は、必ず水に浸します。これを忘れると、絞ったところに染液が入り込み、防染できません。



### 6 染色

液は沸騰させず(発色が濁る)、またムラにならないように液中でよく動かしながら、15分ほど染めます。



### 7 水洗い

その後、媒染液に浸して染色を繰り返すと、濃く染まります。



### 8 藍を重ねて染める

春先に学校の花壇に藍のタネをまいておけば、夏前に育ち、生葉で染色できます。藍の生葉をミキサーに入れて粉碎し、漉し布で絞ります。そこに布を入れると緑に染まりますが、空気に触れると青く発色します。ここでは藍の葉っぱがまだ育ちきっていません

ので、希望者は美術館から持って行った藍の枯葉を使って染めました。化学薬品(ハイドロサルファイトコンク)を使うと刺激臭がひどいので、優しい材料(石灰と麦芽糖)を使います。すると白いところは青く染まり、黄色く染まっていたところは緑になりました。



### 9 植物染料の話

身近な植物で染めてみて、どうでしたか? 植物をたっぷり使い、時間をかけて何回も染めると、鮮やかな色に染まります。最後に天平時代から染色に使われていたいろいろな植物と色を紹介します。

※このページに登場するお友達/別府市立東山小中学校



THE BLUE

出前ワークショップ

## 絵の具の調合 わたしの青い色

色を混ぜて自分だけの色をつくるのは、何とも楽しいこと。しかも顔料系の場合は水に混ざり、染料系を使うと水に溶けていく。その様を見ることもまた楽しい。2018年には「あか・赤・アカのインスタレーション」と題し、自分の赤い色づくりを行いました(宇佐市立宇佐中学校)。今年度は、自分の青い色づくりを行いました。

### 材料と道具

ガラス瓶、空き瓶、カラーインク、水彩絵の具、アクリル絵の具、スポイト、懐中電灯、ロール画用紙(大)  
※オリエンテーション用に、青い絵の具となる鉱物や植物があるとわかりやすい。



### 1 青い色のお話 天然の顔料

「青」は、自然界の動物、植物にはとっても少ないけれど、晴れた日の空や海は真っ青です。西洋では「青」は手が届かない神様の色と言われ、聖母マリアの衣はその象徴です。では鉱物の世界はどうでしょう。ほとんどアフガニスタンでしか採れないラピスラズリは、海を越えてやって来たウルトラマリンブルー。アズライト(藍銅鉱)からなる群青は、東大寺の大仏建立のために銅を採った長登銅山・滝ノ下(山口県)や、豊臣秀吉が狩野山楽に独占的採掘権を与えた多田銀銅山(兵庫県)で採れる貴重な「青」でした。



### 2 青い色のお話 天然の染料

青い色を染める植物は、藍とクサギの実に限られます。クサギの実には赤い花弁に青黒い実なので、10月頃に山へ行けば、意外と簡単に見つかります。藍の産地としては徳島県が有名ですが、幕末に白杵に藍が伝わり、一時は栽培していたことを示す碑と記録が残っています。発酵させた染は濃く染まりますが、管理が大変です。生の葉っぱはミキサーで粉碎すればすぐに染まり、枯葉でも染めることができます(p.4-10)。



### 3 染料と顔料、 そして天然と合成

染料は水に溶け、熱反応もしくは化学反応で色が定着します。顔料は水に溶けない色材で、絵の具にするには接着剤の役割をする展色材が必要です(p.5)。染料は水に溶けるため、色が付いたところも付かないところも同じ触り心地ですが、顔料は展色材を使って顔料の粒子を貼り付けているため、触ると色の付いたところがわかります。絵の具屋さんがなかった時代は、鉱物・植物・動物から得るため苦労していましたが、今は合成絵の具がつかわれています。強い毒性もなく、色数も増え、色落ちもしない。簡単に入手でき、いろいろな表現を誰もができるようにしました。



### 4 つくって見る

絵の具には染料系のインク、顔料系の水彩絵の具、アクリル絵の具などがありますが、それぞれいろいろな色名が付いています。色を混ぜて自分の「青」をつくってみましょう。「青」そのものは、混ぜてもできないので、ブルー、ウルトラマリン、セルリアンブルーなどをベースに、同系色、類似色、そして補色を意識して混ぜてみましょう。色環で補色は正反対の色ですが、ちょっとだけ混ぜると彩度が低く落ち着いた色になります。ガラス瓶につくるので、水の中にカラーインクを数滴たらし、混ざる瞬間のマール模様を楽しむのもよい。さらに、絵を描くときにはあまり行きませんが、染料と顔料を混ぜてみたら、どんな「青」ができるかな?



### 5 並べて見る

自分の「青」ができれば、大きな紙の上に並べてみよう。隣に来る色との距離を俯瞰して見ながら置いていくのがポイントです。5m四方ほどの紙の上に並べれば、青のインスタレーションのできあがり。カラーインクを入れた瓶は、揺らさないようにそっと持って行ってね。

### 6 光を変えて見る

部屋を真っ暗にして、懐中電灯の明かりで見よう。光の筋や影で、色の瓶はどんな風に見えるかな?



### 7 まき散らして見る

最後に、瓶に入った絵の具を紙の上にまき散らそう! 手足を使って、紙の上で色を混ぜてみよう! こうしてアクションペイントでできた画面は、できればそのまま乾かし、垂直面にして見てほしい。水平面で見えていた印象と、おそらく変わるはず。

この上から、さらに白いクレヨンだけで描いたり、好きな画面をトリミングして切りとったり、バラバラにしてからコラージュしたりと、まだまだ展開のさせ方はいっぱいあります。

※このページに登場するお友達/ 姫島村立姫島小学校

# 作る・造る・創るのが 大好きなあなたのために。

作る・造る・創るのが大好きな人たちのために、今年度、行ったワークショップの中から、とっておきのワークショップを紹介します。お家で、学校で、つくってみてください。

## ガラスと水晶 キラッキラッ

「見る」と「作る・造る・創る」ことをドッキングさせました。

つかうもの

ビーチグラス(海岸で拾います)、ガラス製の鉱物(水晶・石英・黒曜石など)、強力接着剤、油性ペン、敷紙、その他パンコールなど  
※オリエンテーション用に、ガラス製品(コップ、空き瓶、シャーレ、ピーカーなど)があるとわかりやすい。

ジャムの空き瓶を底から眺めてみる。

**1** 身の回りにあるガラスでできたモノやガラス彫刻を見てみよう。



シャーレやピーカーなどの理科学用品は、特別な形をしています。

ビーチグラスは、割れたガラスのカケラが波に洗われて丸くなったものです。海岸で探してみよう!

**2** ガラス製のモノを見てみよう。



小松誠《クリンクル》シリーズ、高橋禎彦《つぶつぶコップ》、青木美歌《Series of seed'4》など、作品を一つ出すたびに「きれい〜」「かわいい〜」など歓声が上がりました。

シリカ、石英、水晶、黒曜石など、天然の石にはガラス質のモノがいろいろあります。



**3**

水晶のカケラを持って、散歩に行きます。落ちていた石の中から気になるモノを拾います。



**4** 水晶と石を合体させて、妖精をつくります。

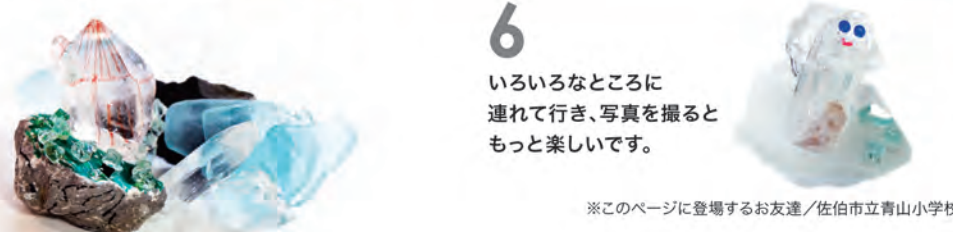


**5** 完成したら、目を合わせよう。きっと仲良しになれます。



**6**

いろいろなところに連れて行き、写真を撮るともっと楽しいです。



※このページに登場するお友達/佐伯市立青山小学校

美術館では、ガラスや水晶を見るワークショップ・レクチャーを開催しています。

朝のおとなの1010講座  
見るは楽しい教材ボックス  
「ガラスのゆくえ」



ビーチグラスはカケラを見るときれいだけど、大量に見るとゴミの山?ユニークな形の小松誠《クリンクル》シリーズ、高橋禎彦《つぶつぶコップ》《モールドコップ》。鉱物のシリカ・石英・黒曜石をはじめ、ガラス質の海綿動物「偕老同穴」も紹介しました。青木美歌《Mycelia》《Fluid'4》、高橋禎彦《なぞ》は、そっと触れての鑑賞です。





つかうもの

両面色画用紙  
(ハツ切りサイズ 392×271mmぐらい)  
ハサミ、糊、色鉛筆、敷紙

1 色紙をたたんで  
切り込みを入れて  
変形させると  
本ようになります。



# たたんで、ひらいて、きって、ポン!

両面色画用紙を使って変形立体絵本をつくります。  
手を動かしながら、イメージを広げていくのが楽しいです。

2 切ってページを増やしてみましょう。



絵を描きたい人は  
はせんせん描きましょう。



3 ページに切り込みを入れて折り、変形させたり、コラージュ(貼り絵)したりして楽しめます。



4 構造をもっと複雑にしてみよう!



飛び出す絵本のように  
仕掛け用の紙を  
折ってつくります。  
こんなふうに折ってね。



おうちでつくるときは、絵の具やクレヨンを使ったり、  
写真や布や毛糸など、いろいろなモノを貼っても  
面白いです。工夫してみてください。



※このページに登場するお友達/大分市立西の台小学校・由布市立庄内中学校、OPAMワークショップ参加者

# アニマル雑技団～空中サーカス編

鼻で、尻尾で、綱渡り。バランスとって、空中をブラブラ渡ります。

つかうもの | ベースとなる紙(150×200mmくらい、白紙でも色紙でもOK!)  
穴あけパンチ、毛糸、動物用の厚手の紙、ハサミ、水性ペン、色鉛筆



「WHO ARE WE 観察と発見の生物学 国立科学博物館 収蔵庫コレクション Vol.1 哺乳類」展にあわせて「アトリエ・ミュージアム みんなでつくろっ!」で行いました。

手や足、耳やシッポなど、必ず毛糸にひっかかる場所をつくります。



尖ったもの(出なくなったボールペンなど)と定規で筋をつけると、きれいに折れます。

1 ベースになる紙を二つ折りにする。

5 周りの舞台・風景を描いて完成!

2 両サイドの上の方に穴をあけます。

3 毛糸を結びます。

4 動物を描いて切り抜きます。



# 回転デコレーション 大盛り♡

グルングルン回して、色も形も混ぜちゃえ!

つかうもの

土台となる円盤(厚さ3~5mmくらいのハレバネや段ボールを直径60cmくらいに切る)、ビー玉、セロハンテープ、糊、両面テープ、色紙、薄葉紙、包装紙、ポスター、ハレバネや段ボールの端材、水性ペン、クレヨンなど

1 つくり始める前に、円盤を転がしたり、頭にのっけたりして遊ぼう。



2 円盤の裏側、中心にビー玉を貼り付けます。



ハレバネや段ボールの端材を使うと立体的になり、面白くなります。ただし、貼りすぎると重くなってうまく回りません。

3 色や形で楽しくします。



4 途中で回しながら、制作を進めます。



5 できあがったら、みんなで回そう! 横から、下からも、のぞいてください。



# 親子で感染防止グッズ作り

今年も大分県立芸術文化短期大学でアートマネジメントを勉強している学生によるワークショップを、「アトリエ・ミュージアム みんなでつくろっ!」で行いました。新型コロナウイルス感染防止対策のためのグッズで、マスク・マスクケース・消毒ボトルの3点セットです。あらかじめ用意したイラストシールから選んで構成すれば、簡単に自分だけの感染防止対策グッズの出来上がりです。



# 身近なモノで遊ぶ・心と身体を動かす

身体と感覚を活性化させることが、何よりも大切。そんな体感ワークショップの中から、昨年度の記録集では紹介しきれなかったものや、定番の様子まで紹介します。

## ふわもこ

直径8メートルの布を膨らませるOPAM人気No.1プログラム「ふわもこ」は、正式名称が「ふわふわ、もこもこの気持ち」。布がフワッとなる瞬間に、子どもも大人も大喜びです。

つかうもの | 直径8メートルの布  
(まわりにゴムを入れる)、  
液晶プロジェクター

### 小さく揺らす

みんなで丸くなって、小刻みに布を揺らします。

### 大きく揺らす

よりダイナミックに、できるだけ大きく布を揺らします。身体全部を使って布を動かしましょう。布の下に落ちたくなっちゃうかもしれないけど、我慢します。

### 順番に布の上ののってみる

ゆっくり布の上ののって歩いてみよう。ごろごろしても気持ちいい。まるで雲の上を歩いたり泳いだりしているよう？ 空気で膨らんだところに飛び乗ろうとすると、つぶれて床に激突するので、気をつけてね。

### 人間ドーナツだ!

真ん中に数名座り、みんなで呼吸を合わせて膨らんだ布を床に下ろします。まるでドーナツみたいでしょ？

### 大きな卵? クラゲ? お餅?

人がいない状態で、みんなで呼吸を合わせて膨らんだ布を床に下ろします。大きく布が膨らんだ様子は、巨大な卵? クラゲ? それともお餅みたいじゃない?

### まわりから近づこう

手足を広げたまま、すり足で布に近づきます。布を踏まないように気を付けて、足で押し進めると、中の空気が集まって、だんだん高くなります。いっせいに離れると、布は弾むように広がります。

### 中に入ってみる

みんなで呼吸を合わせて膨らんだ布を床に下ろすとき、中に入ります。まるでドームの中みたい。ジャンプすると手が届くかな? 周りの布を真ん中に寄せると、天井は高くなっちゃいます。

### 外から、中から

ぴったり近づくと、シルエットがはっきり浮かび上がります。顔をくっつけるとお化けみたい。

### ふわもこギャラクシー!

みんなが中に入っているときに、部屋を暗くして、外から映像を投影します。宇宙の映像を投影するのが「ふわもこギャラクシー」。まるで宇宙旅行をしているみたいな気分になれるんです。

他にも、須藤玲子(テキスタイルデザイナー)のこいのぼりを投影したり、クリスマス・イルミネーションを投影する「ふわもこX'mas」、そしてダイダイの帽子をつかって行う「ふわもこ鏡餅」があります。



### カラフルぐにゃりん

ぐにゃぐにゃ曲がる丸棒状の発泡材を投げたり、潜ったりして遊んだあとは、自分専用のモノをつくります。

どれくらい  
長さ?

出すだけでも  
面白い!

へびみたい?

集めてみると...

一人分に  
切ります

これで  
遊んでみよう

自分だけの  
モノに変身!

みんな  
で遊ぼう!



どんどん、どんどん、ひっぱれ、ひっぱれ。まずは箱から全部を引き出します。



長く伸ばしたチューブはなんと60メートル。ぐにゃぐにゃさせてみよう!



まるでへびみたい? 縄跳びだってできちゃいます。



集めると、ぐにゃぐにゃの塊。空中に向かっていっせいに投げてみよう!



両手を広げた長さは、だいたい身長と同じ長さかな。一人分ずつに切り分けます。



振り回したり、丸めたり、結んで投げたてみると、遊び方も自分たちで考えます。



このままだと、みんな同じ。模様を描いたり、カラー紙テープを巻いたりして、自分だけのモノにしちゃいます。



完成したら、みんなでぐにゃりんして遊びます。





### ころころピンポン

1,000個のピンポン玉のシャワーをあびる「ころころピンポン」は、人数と場所により、数をもっと増やしちやいます。今年度はなんと、10,000個をお皿にのせて、花火のように打ち上げました。

つかうもの | ピンポン玉、トレー

このまま真上へ  
投げ上げると  
お花の火火お花火  
たがります。

※このページに登場するお友達 / 大分市立寒田小学校・ひまわり幼稚園 (大分市)



### ぼわんぼわん

ビニール袋に空気を入れて、空中に投げたり、転がしたり、乗ったり。空気の形と戯れます。

つかうもの | ビニール袋、ビニールシート、チューブ状ビニール、アイロン、布団乾燥機、送風機

ビニールシートを  
アイロンの熱で溶かして  
つなげれば、大きなものが  
できますよ。

※このページに登場するお友達 / 佐伯市立佐伯小学校・竹田市立緑ヶ丘中学校、オープンアトリエ ちたた



### ぱたふわ

一枚の紙を、もんだり、切ったり、ちぎったり。うちわでバタバタ舞い上がらせると、まるで竜が天に昇るようになります。

つかうもの | 半紙、うちわ、大きなビニール袋、布団乾燥機

布製の紙は  
ビニール袋に入れて  
ぼわんぼわん  
片付けも楽しんじやあう。

※このページに登場するお友達 / 佐伯市立佐伯小学校・由布市立阿南小学校・杵築市立東小学校



### カラフルチップ パラダイス

色とりどりのカラフル紙テープを細かく切って、花吹雪のようにまき散らすワークショップです。

つかうもの | カラー紙テープ、トレー、ハサミ、ビニールシート

切った紙テープが  
たくさんあるほど  
盛り上がるよ。

※このページに登場するお友達 / 佐伯市立切畑小学校

びじゅつかんの旅 & 小4ミュージアムツアー & OPAMワークショップ

見るワークショップ@コレクション展示室



学校とのコレクション作品鑑賞は、大分県立美術館が幼稚園・こども園から小・中・高等学校や特別支援学校までを対象に希望校を募って行う「びじゅつかんの旅」と、大分県教育委員会が小学4年生を対象に希望校を募る「ミュージアムを活用した美術教育実践事業」(通称:小4ミュージアムツアー)があります。

どちらも作品を友達同士、または先生やガイドスタッフと「一緒に見る」ギャラリーツアーとして行っています。これは作品解説ではなく、ワークショップ形式のギャラリーツアーです。美術館でもこうした見るワークショップを行っています。どのような方法で行っているのか、いくつかポイントを紹介するので、ぜひ、展示室で試してみてください。



ピン・ポイント効果! ~手で周囲を覆ってみる

離れて絵を見るときに、手を筒状にしてのぞいてみよう。画面が明るく見えない? これは作品と壁を一緒に見ないようにすることで、作品が壁の白に影響されないから、色が明るく見えるのです。



作品を見る距離を変えてみよう!

ベストスポットは?

初めに作品の縦横を見比べ、長い方と同じ距離だけ下がったところから見てみよう。視界の中に、作品がすっぽり収まって見えない? ここがベストスポットです。



作品の長辺と同じ距離

近寄って見ると...

線の勢いや絵の具の粒子に注目すると、どうやって描いたかがわかります。

かぶりつき距離



俯瞰の距離



逆に離れて見ると...

作品全体の雰囲気や印象を感じることができます。



作品の全体は、いけませんよ



しゃがんで見る

気になる作品の前では、しゃがんでじっくりと見よう!

ただし油絵の作品ではニスや油で光っていたり、額装してあるとガラスに照明が反射して見えないこともあります。でも、その位置だからこそ、見ることができる場合もあるんだ。その代表的なものが、日本画の岩絵の具の粒子です。キラッと光る粒子はまるで宝石みたいじゃない?



※このページに登場するお友達/大分市立大道小学校、日田市立日隈小学校、杵築市立東小学校、ひまわり幼稚園(大分市)、佐伯市立青山小学校、九重町立南山田小学校、九重町立東飯田小学校

### 色・形、そして素材に注目

触り心地を想像できるかな?

- 何色を使っているの?
- 何に見えるの?
- ツルツル、ザラザラ?
- 重い、軽いの?
- 冷たい? あたかい?
- どんな材料でできているの?
- 触ったつもりで、触り心地を想像できるかな?



近くで見ると、素材のツブツブが見えるよ!



### いろんな角度から見てみる ~目を合わせる

目と目が合うと…?

特に動物作品の場合は、目を合わせると可愛さ・怖さが倍増するだけでなく、動物の気持ちになれることもあります。



目が合うとこっちは笑っちゃう

### 一人で・友達と

作品と会話を楽しんで!

感じたことを話したくなったら、どんどん話してもらいますが、作品を黙って見つめるだけでも十分です。



※このページに登場するお友達/由布市立川西小学校、大分市立大道小学校、杵築市立東小学校、佐伯市立青山小学校、由布市立石城小学校、九重町立東飯田小学校、九重町立野矢小学校、OPAMワークショップ参加者



先生のためのワークショップ



美術に答えはない。教える・教えられるという関係ではなく、子どもたちと一緒に感じる、あるいは一緒に作りあげていくことが可能だ。そのためには、まず先生自らが、色を楽しむ、形で遊ぶなど、美術作品を能動的に見て、心を遊ばせてほしい。するといつの間にか、美術の楽しさは子どもたちに伝わるだろう。そんな思いで行っている今年度の研修を紹介する。



小学校教員テーマ別研修

油性ペンを使って自分の名前をローマ字で書き、読めないように建物に変身させてしまう簡単なミニ・ワークショップを行った。また写真で今までのワークショップを振り返り、コレクション展示室では、通常子どもたちと見ているような楽しみ方を実践した。



幼稚園中堅教諭等資質向上研修

セロハンテープを迷路のように、蜘蛛の巣のように、張り巡らせるワークショップ「べとんべとん」を全員で行った。このワークショップは気を付けないと、文字通り、べとべとになってしまうスリルあふれる場所づくりだ。コレクション展示室では、子どもたちの視線の大切さ(子どもにしか見えていない・子どもには見えていない作品がある)について話をした。



幼保連携型認定こども園新規採用保育教諭研修

新型コロナウイルス感染防止対策のため、身体と感覚を刺激するワークショップは、数名が代表して行った。展示室には、目を合わせると可愛さ・怖さが倍増する動物たちの作品群。この楽しさを、ぜひ子どもたちと感じてほしい。



幼稚園新規採用教員研修

身体と感覚を刺激するワークショップから、指先で支えた棒を落とさないようにする「コミュニケーション・スティック」と、障子紙の質感を変化させるワークショップを行った。作品の鑑賞は近寄ることも大切だが、離れて見ることも大切。小さい子どもたちと、ぜひ、美術館の楽しさを感じてほしい。



白杵市小学校教員図工部会研修

先生たちの自主的研修では、美術とは何か、美術館とはどんなところなのか、といった話も行う。そして色紙を切ったり貼ったりしてつくるワークショップ「たたんで、ひらいて、きって、ポン!」(p.15-16)を行った。



ステップアップ研修

公立小学校在職2年目の先生を対象にした「ステップアップ研修」。新型コロナウイルス感染防止対策のため中止していた研修を、2年ぶりに行った。身体と感覚を活性化させる体感ワークショップを行ったあと、コレクション展示室に行く。今度は子どもたちと一緒に美術館に来てほしい。





### 出前ワークショップ 「ばたふわ」「たまごころころ」からの、 先生のための研修

ワークショップの実践を見てもらい、その振り返りから、今後どのように毎日の活動に生かしていくかを考える「先生のためのワークショップ」を、今年度からスタート。「認定こども園 ひまわり幼稚園」にて行った。

紙をもんで触感を変えたり、細長く切ってうちわであおいだりするワークショップ「ばたふわ」を年長クラスで行い、その後、参加できなかった他のクラスの先生とともに活動を振り返った。身近な素材でも今まで見たことのないような展開ができること、もみ方を変えるだけで紙の触感が変わることに驚き、『びじゅつって、すげえ 2020-2021』に掲載されている他のワークショップも確認した。

「たまごころころ」はプラスチック製の卵型カプセルに重を入れて転がすワークショップで、油性ペンで色模様を描き、回転とともに色と形が混ざるのを楽しむ。こちらは年中クラス3組で行い、その様子をビデオ撮影して、のちに活動を振り返った。その時々の子どもの反応によって、3回とも微妙に進行が変わっていることに、改めて納得の様子。その他の卵を使ったワークショップも紹介した。

実践を体感してその後に振り返る「先生のためのワークショップ」は、本年度、新しく始まったばかりだ。この方法は、先生たち自身が子どもとの関わりを他人事ではなく感じられ、同じ内容でも進行を変えることによってみんなが楽しめることを知る機会となったと好評で、今後も続けていきたい。



## 橋本真之 「素材の変容 鍛金を見る・知る・触る」

佐伯市立本匠中学校の全校生徒18名を対象に、鍛金造形作家の橋本真之氏と出会う、内容の濃いワークショップを行った。

### 1. 美術館スタッフによるオリエンテーション

講師の橋本真之氏と行うワークショップについての予告を行い、次回までに自分の頭くらいの石を拾ってくることにした。



### 2. ワorkshop当日

午前中は、橋本氏によるトーク。制作に至る思い、苦勞、楽しさなどを、画像を見ながら話す。途中、作品《凝集力-上昇》を運び入れ、作品鑑賞も行った。

午後は、各自が河原から拾ってきた頭ほどの大きさの石に、厚さ1.5mmのアルミ板をのせてひたすら叩く。パーナーをあぶりながら、叩くことを楽しみながら、形を考えた。この日の制作だけでは時間が足りず、後日、美術の授業や放課後にも制作した。

この作品は中学校のエントランスホールに1か月間展示して、地域のの人たちにも見てもらった。



### 3. 美術館スタッフと作品完成に向けての確認

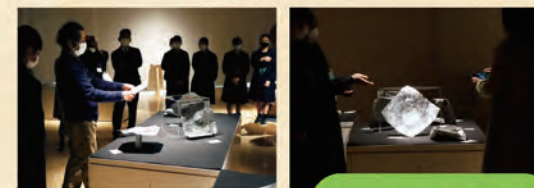
正面はどこ？ タイトルは？ 作品完成に向けての確認と、次回、美術館で行うことの話をした。



## 4.

### 作品発表

美術館に作品を展示し、橋本氏による講評を行った。作家目線の鋭い指摘に、緊張する中学生。橋本氏も制作に没頭した中学生に感動していた。



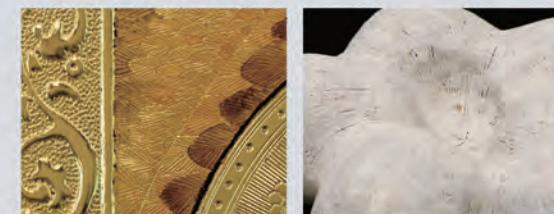
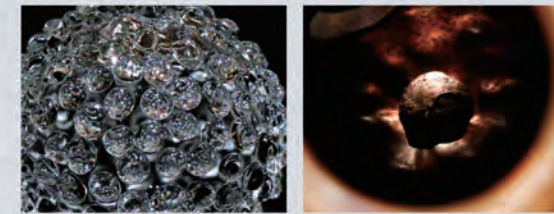
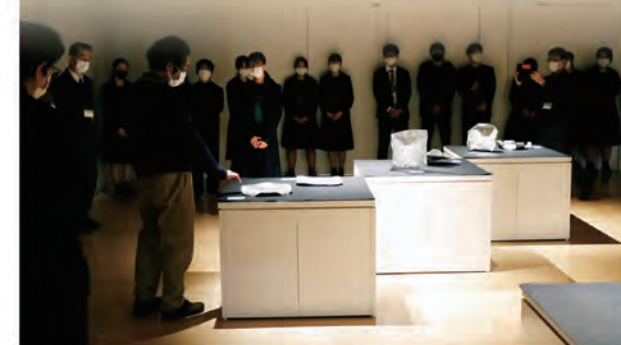
年末年始の間、作品を美術館の体験学習室に展示。訪れた人々から、「どうやって作ったの?」「作家の作品?」「中学生が作ったとは思えない」などの感想が聞かれた。

先生たちには、様子を見てもらったり、一緒に作品を鑑賞したり、中には制作を一緒に行った先生も。作家と生徒との関わり合いから、美術の広さ、そして作家の情熱を感じ取っていたようだ。中学の先生は自身の専門教科を教えるが、美術とは関係のない教科の先生にも、この経験を何かに取り入れてもらえたらと思う。

### 橋本真之

#### Profile

鍛金造形家。銅板を打ち延ばした球体や袋状の形態をつないだり組み合わせたりして、不規則な連続が増殖していく金属造形を制作する。鍛金による徹底的な手仕事の制作は、叩けば伸びる素材の特性と、作家の形態への意識を融合させた造形となり、工芸の造形の本質を追求しながら、現代美術と工芸が融合した造形活動を行っている。



びじゅつって、すげえ! 2021-2022  
Vol.1 あれも、これも、どこでも美術。

企画・制作・発行  
OPAM地域連携創造事業実行委員会

事務局  
公益財団法人 大分県芸術文化スポーツ振興財団  
大分県立美術館  
大分市寿町2番1号 TEL.097-533-4502

執筆  
榎本寿紀 大分県立美術館 学芸企画課 教育普及室 室長

編集協力:ラルゴ 井上裕子  
デザイン:ディ・エア 佐々木ツヨシ  
印刷:株式会社 明文堂印刷

2022年3月発行  
※本誌に掲載した記事・写真・イラスト等の無断転載は禁じます。

OPAM地域連携創造事業実行委員会は、大分県芸術文化スポーツ振興財団(大分県立美術館)、大分大学、大分県立芸術文化短期大学、大分県、大分県教育委員会で構成された実行委員会組織です。国の助成を受け、地域や学校と連携しながら「美術による人材育成」を目的とした活動を行っています。



令和3年度 文化庁  
地域と共創した博物館創造活動支援事業



大分県立美術館教育普及室

<http://www.opam.jp>

<http://www.facebook.com/OPAMeducation>